

第二次栃木市地域公共交通計画アップデート(案)の作業状況について

- ふれあいバスの利用状況から路線ごとの課題の抽出と再編に向けた検討作業
- 蔵タクの利用状況から課題の抽出と再編に向けた検討作業
- 市内公共交通網の最適化に向けた検討作業
- 次年度に向けて計画アップデートの検討作業

ふれあいバス全12路線を、路線番号順に以下の項目で整理

- 沿線人口250mメッシュデータおよび乗降者数の多い停留所
 - 沿線の施設位置および周辺の施設が集中している主な停留所
 - 令和6年度4月～1月合計の路線総乗降者数
 - 令和6年度4月～1月合計の便別総乗降者数
 - 令和6年度4月～1月合計の1便あたりの平均乗降者数
 - 令和6年度4月～1月の1日あたりの各便の平均総乗者人数
- ふれあいバス路線別の課題抽出に向けた現状整理を別紙に記載

蔵タク利用状況(R6年度4月～3月データ)を以下の項目で整理

- 利用状況単純集計
- 乗降地点の状況
- 地区別利用状況
- 町丁目別利用状況
- 町丁目間の利用状況から推測するふれあいバス転換可能性

以下に分析整理状況の一部を紹介する。また、ふれあいバス路線毎の課題抽出に向けたコメントは別紙にて紹介する。

【ふれあいバス路線イメージ図】



蔵タクの運行エリア

北部エリア

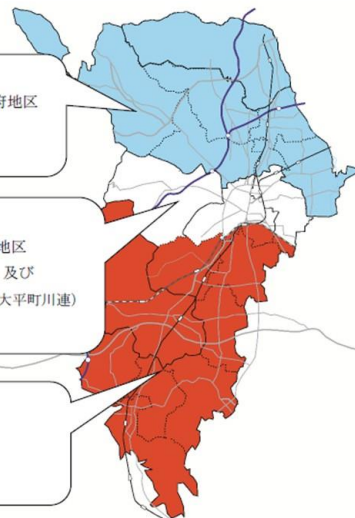
- ・ 栃木地域 … 吹上地区、寺尾地区、国府地区
- ・ 都賀地域全城
- ・ 西方地域全城

中央エリア

- ・ 栃木地域… 栃木地区、大宮地区、皆川地区
- ※ 「栃木市総合運動公園」(川原田町) 及び「とちぎメディカルセンターしもつが」(大平町川連) は中央エリアとして取り扱う

南部エリア

- ・ 大平地域全城
- ・ 藤岡地域全城
- ・ 岩舟地域全城



栃木県栃木市 H22～26に1市5町で合併
人口 152,113人(R7.6末現在)

面積 331.50Km²

【移動サービスの現状】

鉄道 JR両毛線、東武日光線・宇都宮線

バス 民間路線バス1路線、コミュニティバス5事業者・11路線(全て運行委託・4条乗合)

R6全路線合計利用者数227,927人、収支率7.9%、市補助金335百万円

フルデマンド乗合(区域) 蔵タク8事業者(全て運行委託・4条乗合、電話予約は行政)

R6登録者数25,714人、実利用者数1,892人、収支率11.1%、市補助金59.5百万円

スクールバス 小中6校、直営6台・民間3台

福祉有償運送 13事業所(69台)

福祉タクシー券、その他福祉輸送サービス

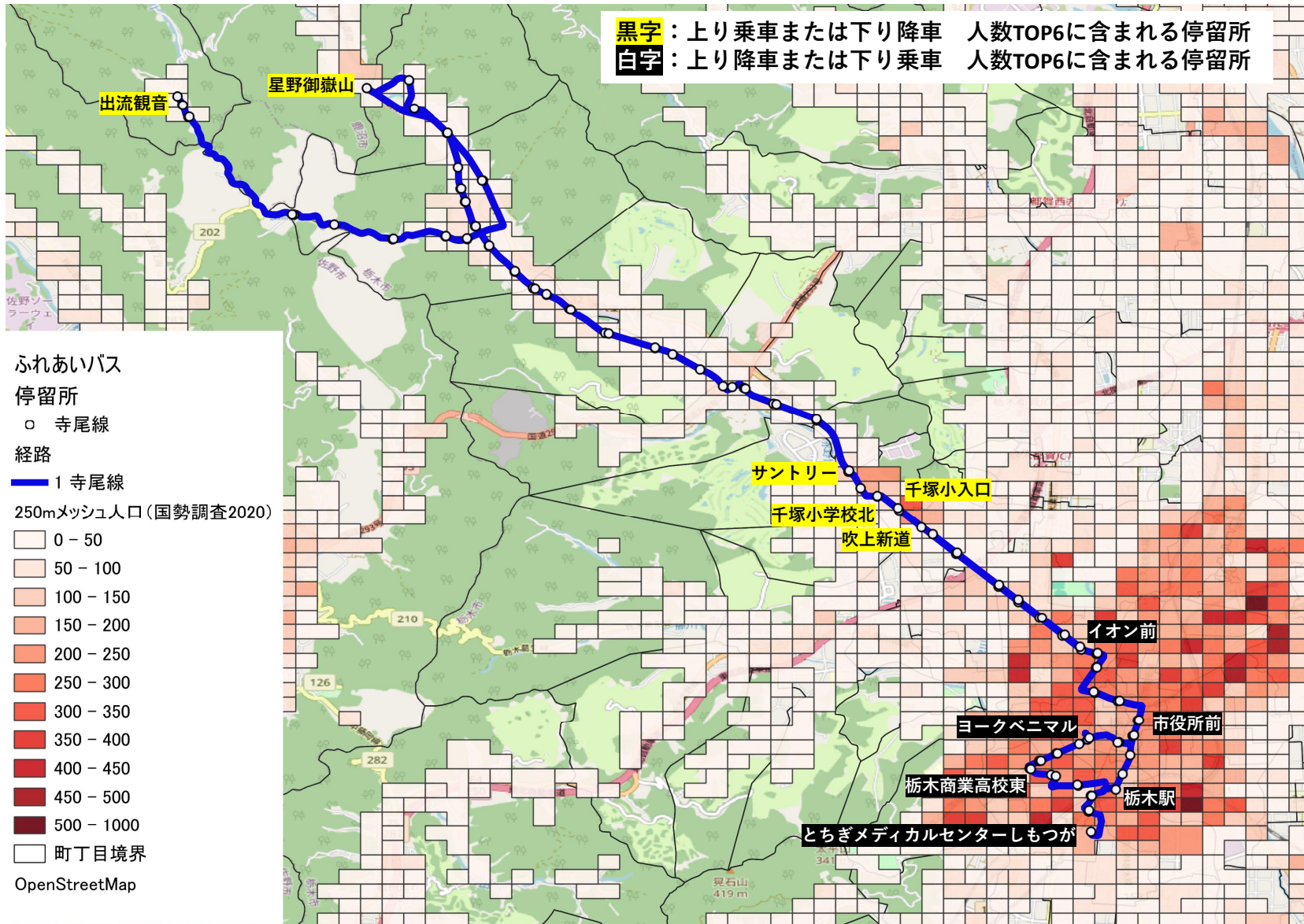
ボランティア輸送も複数あり

地域公共交通網形成計画 H30策定、R9までR6地域公共交通計画に改訂

ふれあいバスと蔵タクの現状

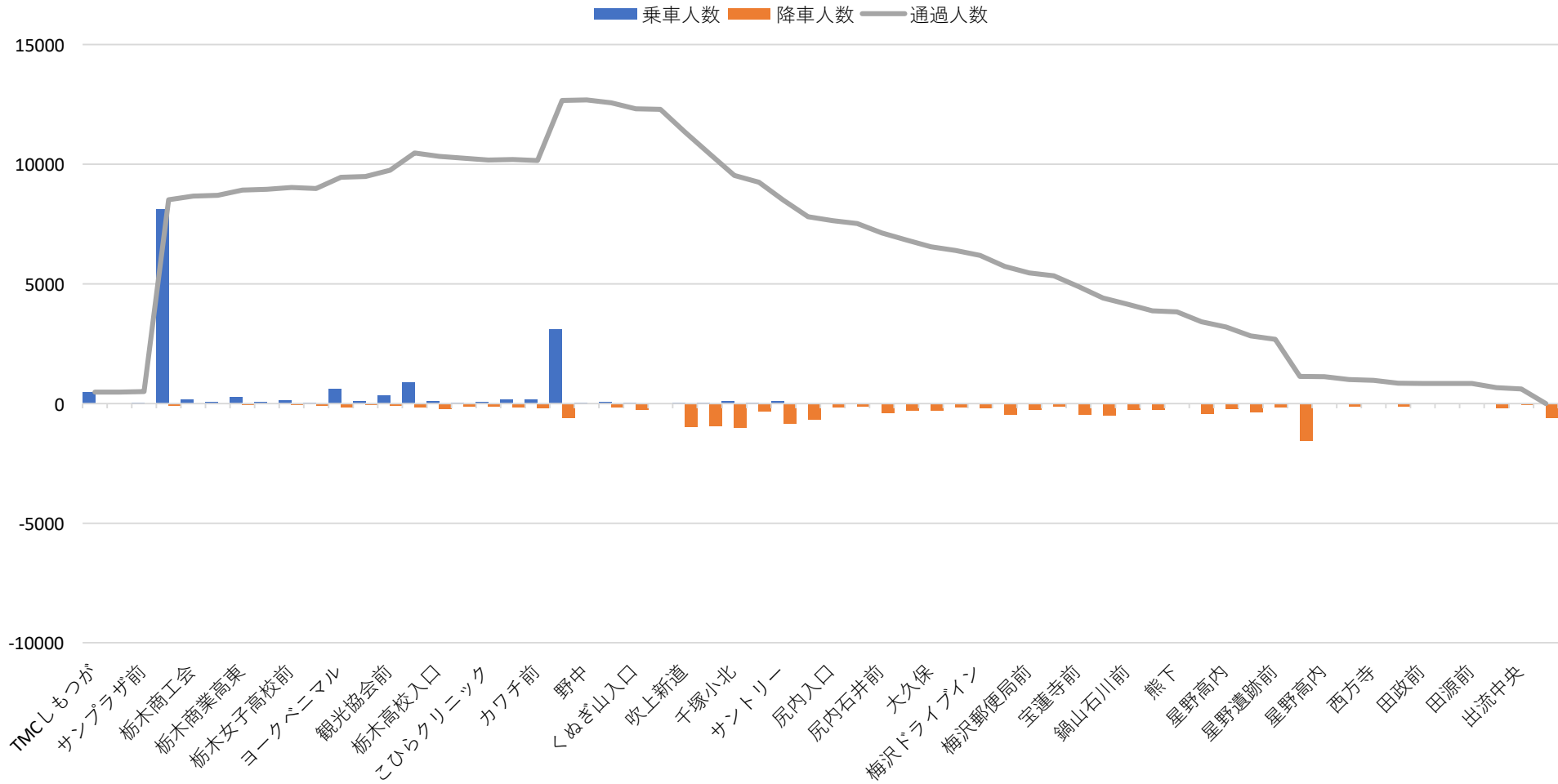
ふれあいバスの路線ごと（12路線）分析結果の一部

寺尾線 沿線人口



250mメッシュで人口（国勢調査2020）を出力

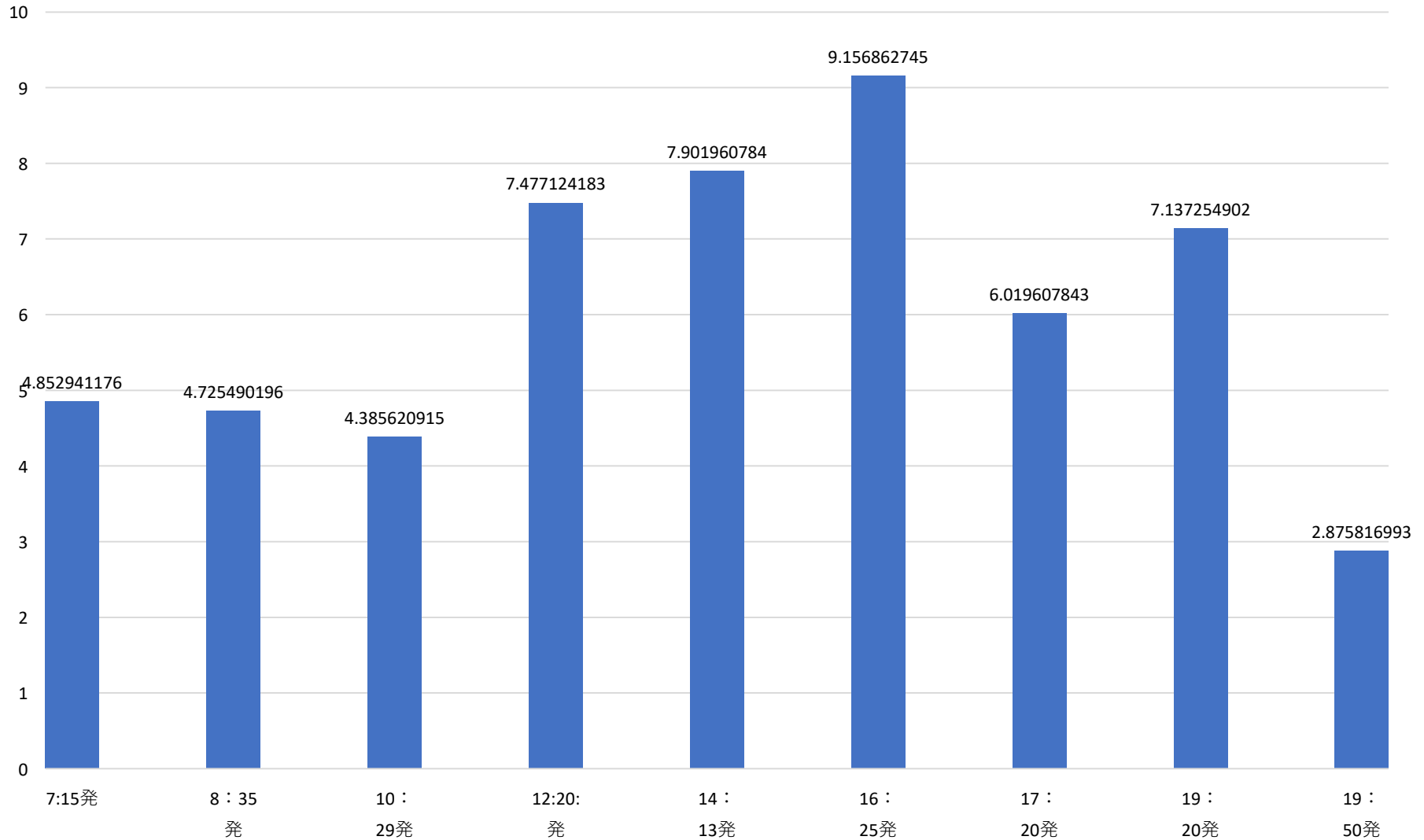
寺尾線 下り 乗降者数(R6年度4～1月の合計)



ふれあいバスの路線ごと（12路線）分析結果の一部

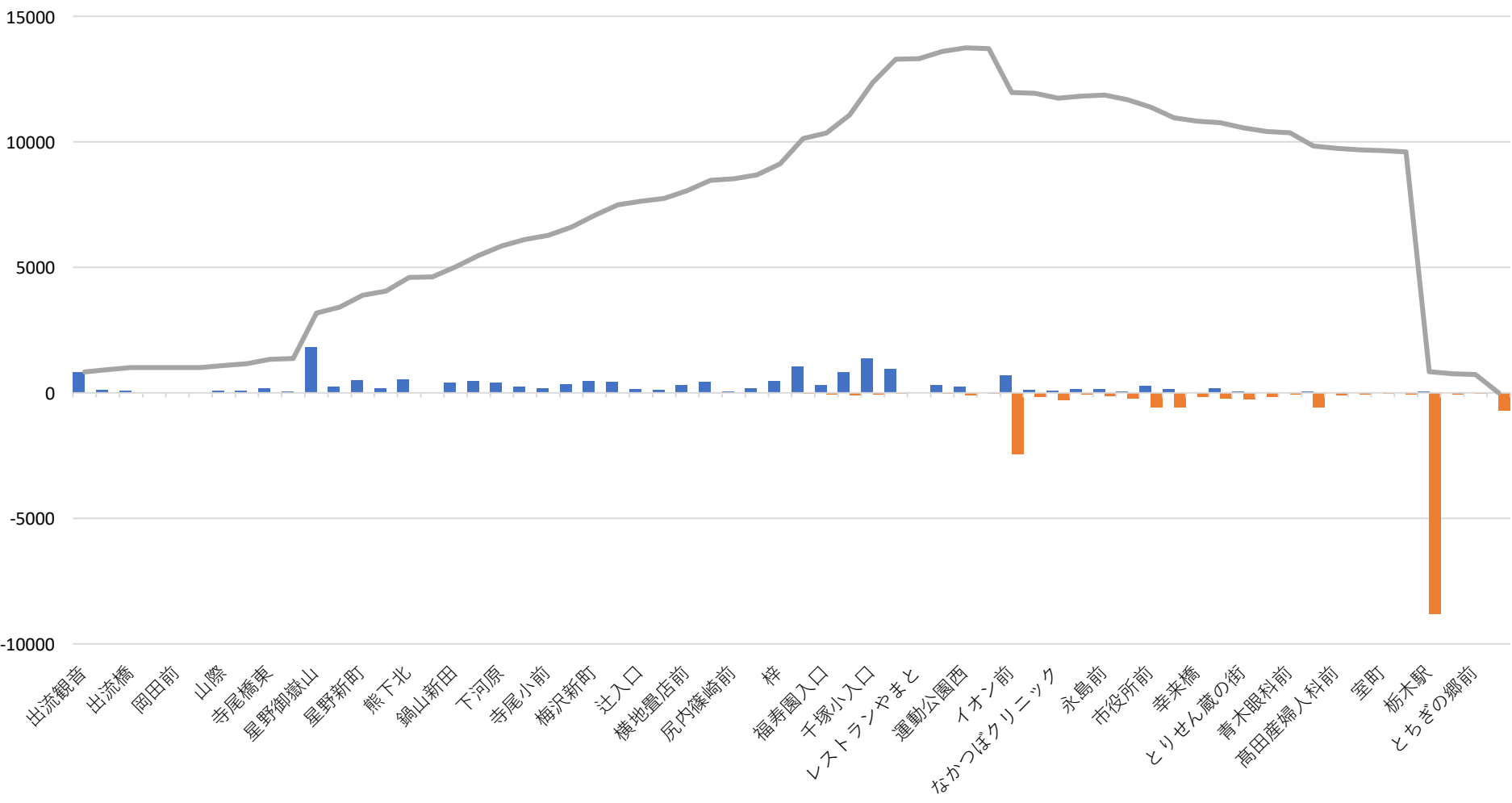
寺尾線 下り 1日あたり 各便総乗者人数(R6年度4～1月)

1日あたり各便総乗車人数



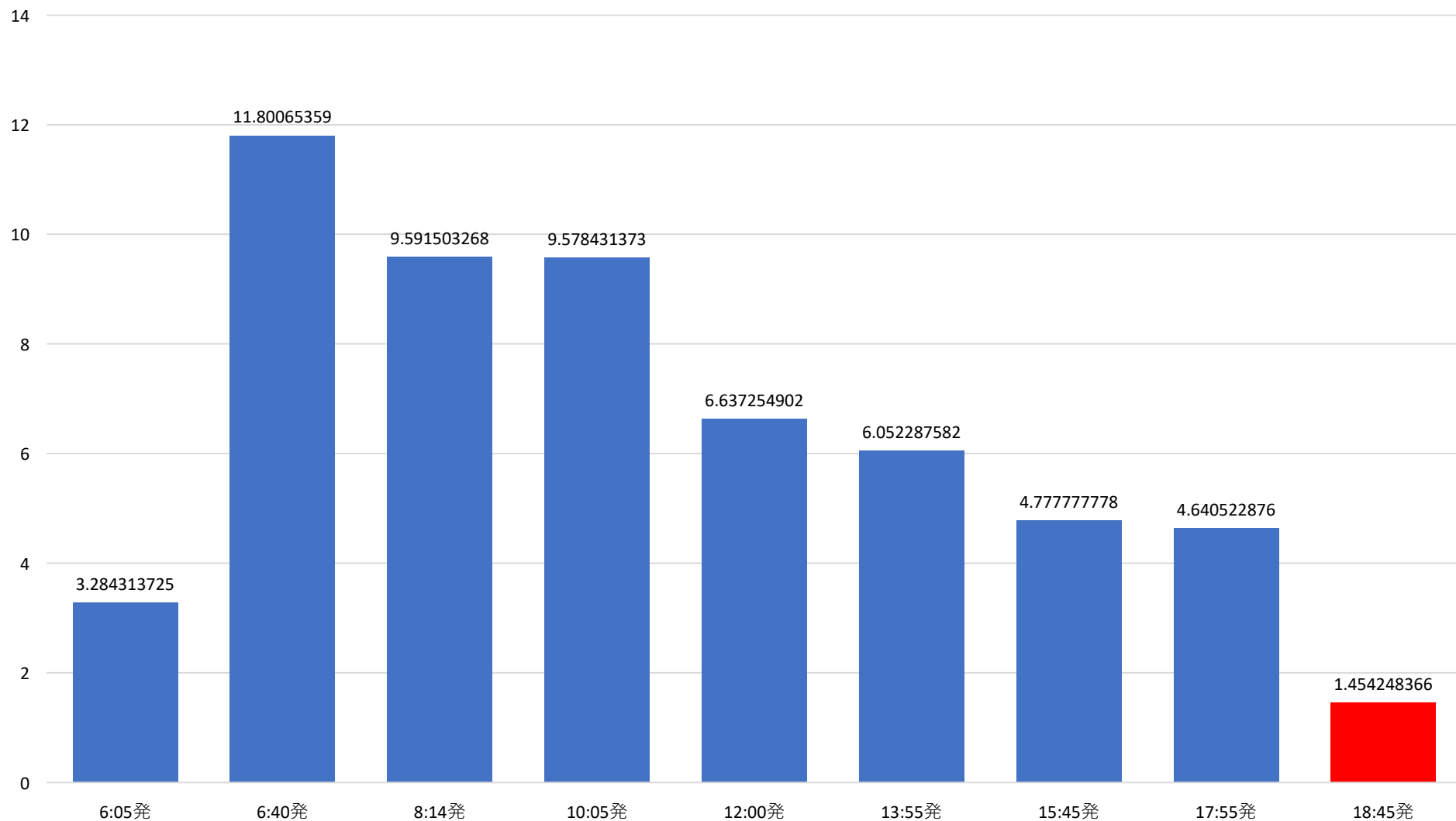
寺尾線 上り 乗降者数(R6年度4～1月)

乗車人数 降車人数 通過人数



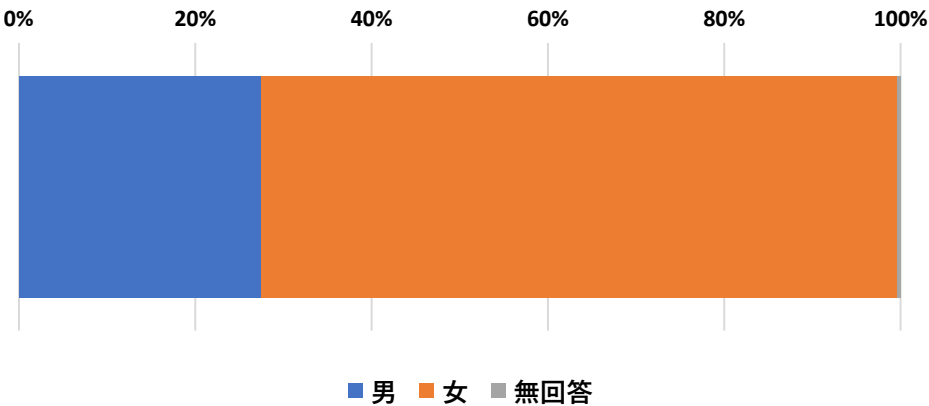
寺尾線 上り 1日あたり 各便総乗者人数(R6年度4～1月)

1日あたり各便総乗車人数

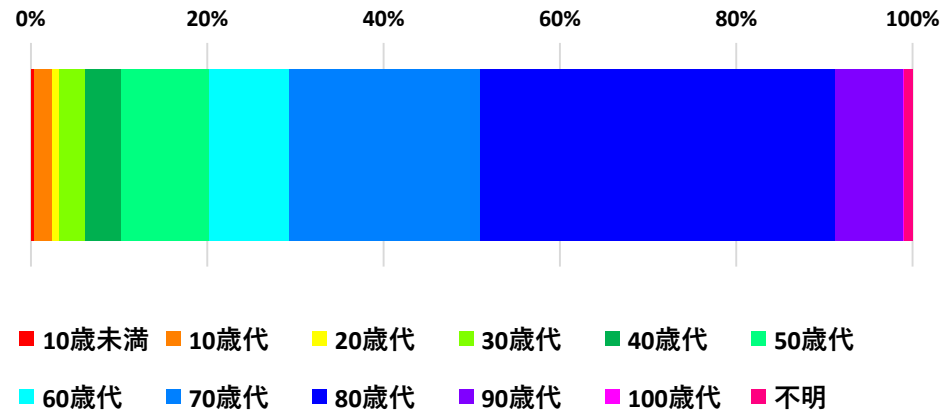


蔵タクの分析結果の一部

のべ利用者 男女比



のべ利用者 年代比

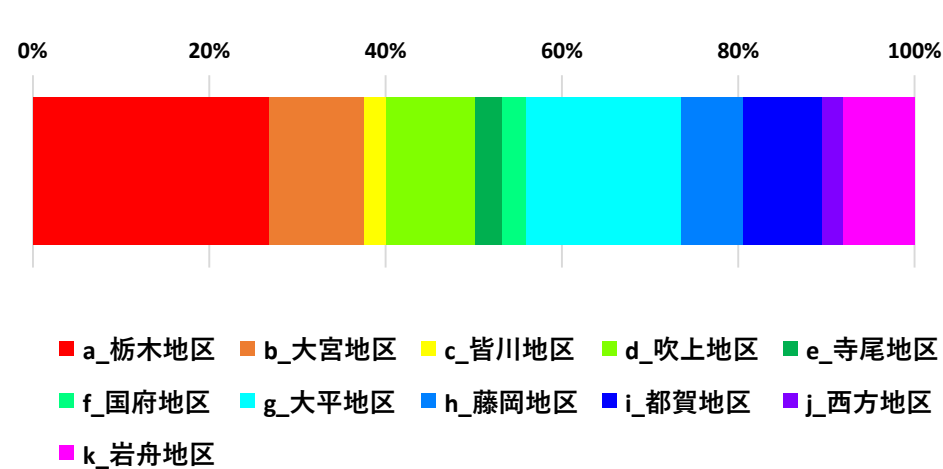


- のべ利用回(人)数は
40,404回(人)
- 男性11,118回(人)
- 女性29,115回(人)

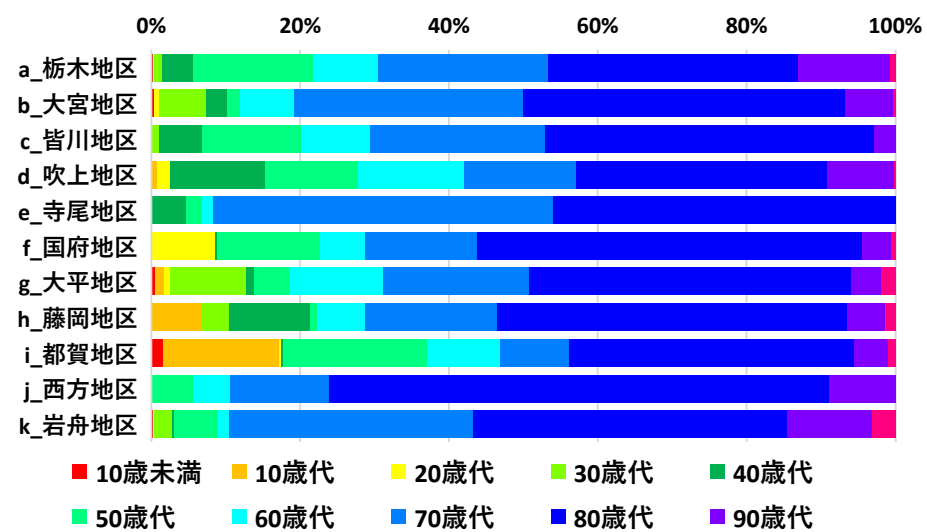
- 利用回(人)数が最も多い年代は80歳代 (16,250回(人))
- 60歳代以上が約80%
- 70歳代以上が70%弱

蔵タクの分析結果の一部

のべ利用者 居住地比 (R6年4月～12月)



利用者居住地別年代比 (R6年4月～12月)



- 利用回(人)数が最も多い居住地は
栃木地区 (8418回(人))
- 最も少ない居住地は西方地区
(730回(人))

- どの地区においても70歳代以上が目立つ
- 50歳代以下の割合が最も高いのは都賀地区

蔵タクの分析結果の一部

		中央	中央	中央	北部	北部	北部	北部	北部	南部	南部	南部
		栃木地区	大宮地区	皆川地区	吹上地区	寺尾地区	国府地区	都賀地区	西方地区	大平地区	藤岡地区	岩舟地区
中央	栃木地区	6200	2156	239	1081	309	280	618	256	1981	303	296
中央	大宮地区	2668	358	98	910	14	156	90	18	805	15	74
中央	皆川地区	309	104	0	72	0	0	223	0	126	115	108
北部	吹上地区	1107	952	71	577	199	7	97	17	269	0	4
北部	寺尾地区	460	39	0	210	0	0	0	0	41	0	0
北部	国府地区	373	151	3	4	0	93	33	0	66	0	0
北部	都賀地区	933	155	218	84	0	184	395	115	175	0	0
北部	西方地区	280	21	0	6	0	0	59	279	9	0	0
南部	大平地区	1837	670	108	136	11	42	106	8	3557	554	804
南部	藤岡地区	328	33	169	1	0	0	0	0	730	362	190
南部	岩舟地区	295	68	73	0	0	0	0	0	1012	315	1272

- 中央・北部から乗車の目的地は栃木地区が多い
- 中央は、中央地区内で完結する利用が目立つ。とりわけ「栃木地区から栃木地区」の利用は年間利用全体の15%
- 北部は、北部から中央・中央から北部という利用が目立つ。
- 南部の大平地区・藤岡地区は大平地区が目的地・出発地で、岩舟地区は地区内で完結する利用が目立つ

⇒ 「北部・中央」と「南部」で利用傾向に差

別紙：第二次栃木市地域公共交通計画アップデート（案）の作業状況について

令和7年度第4回栃木市地域公共交通会議(2026.1.26)資料

ふれあいバス利用状況の現状整理についてのコメント（路線別）

路線名	ふれあいバス利用状況の現状整理についてのコメント
寺尾線	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栃木駅・イオン前での乗車(下り線)・降車(上り線)が顕著となっている。 ・ 吹上新道～星野御嶽山間は、乗車(上り線)、降車(下り線)がまばらにある。 ⇒郊外から市街地へ、市街地から郊外への利用が多いと思われる。 ・ 沿線施設は、市街地中心部に集中している。梅沢町、尻内町、吹上町にも点在。その他の町は皆無である。 ・ 吹上町付近のバス停は、寺尾線の中では利用者数が多いため、沿道施設利用者が一定数いると推測される。 ・ バス停周辺に人が住んでいないと思われる停留所(田源前～田政前)もある。 ・ とちぎメディカルセンター(TMC しもつが)の乗降は他の停留所と比較して利用者数が多い状況ではない。 ・ 栃木駅～星野御嶽山間は1日あたり9本運行している。そのうち6・7本が出流観音～TMC しもつが間の運行となっている。(要確認) ・ 星野御嶽山では鹿沼市営バス(デマンドバスのみ)に乗継可となっている。 ・ Google マップ上で確認する限り、星野御嶽山バス停には簡易的な駐輪場が設置されている。⇒仮に栃木駅～星野御嶽山の運行のみにした場合は片道52分(現状最大ルートは75分)となる。
市街地循環線	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栃木駅・イオンでの乗降が東回り西回りどちらも顕著となっている。 ・ とちぎメディカルセンターしもつが(TMC しもつが)の利用者数は西回りで約700人、東回りで約500人となっている。 ・ 栃木駅～日ノ出町～イオンの循環線のなかでも東側の方が利用者は多い傾向となっている。⇒東側には新栃木駅や、4つの就労施設がある。 ・ 西回りの方が東回りに比べて、通過人数は多い傾向となっている。 ・ 利用者数の多いバス停は駅、商業施設前、TMC しもつがとなっている。 ・ 学校関係(栃木第三小学校、栃木南中学校、栃木女子高校)付近の停留所の利用者は少ない。 ・ 1日あたりの本数は5本となっている。 ・ 1周あたり56分となっている。 ・ 市街地北部循環線と同じ停留所があるので、整理できると効率的な運行が出来る可能性があると思われる。
市街地北部循環線	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栃木駅・イオン・新栃木駅での乗降が東回り西回りどちらも顕著となっている。 ⇒市街地循環線と違い、新栃木駅の利用が目立っている。 ・ とちぎメディカルセンターとちのき(TMC とちのき)～運動公園～イオン間の乗降が多く見られる。 ・ 市街地循環線と同様、西回りの方が東回りに比べて通過人数が多い傾向となっている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者数の多いバス停は駅、商業施設前、TMC とちのきとなっている。 ・ 学校関係(栃木第三小学校、栃木高校)付近の停留所の利用者は少ない。 ・ 1日あたりの本数は6本となっている。 ・ 1周あたり40分となっている。
部屋線	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4駅(栃木駅(2回)、JR大平下駅、東武新大平下駅、藤岡駅)に停留所がある。 ・ 栃木駅、東武新大平下駅の利用者が多い他、商業施設付近のバス停利用者の割合も高い。 ・ 利用者の多くが部屋出張所までとなっている。この点は蔵の街観光バスのヒアリングで聞いた内容のとおりであった。 ・ 桜つつみ公園バス停は小山方面への乗り継ぎ拠点となっている。 ・ わかりやすくするために藤岡駅前を始終点としているが、実際は乗り続けている人がいる。下り線の2回目の桜つつみ公園で乗車人員が『0』になる。 ・ 1日あたりの本数は8本運行しているが、時間帯によって始終点が異なっている。 ・ 栃木駅から藤岡方面では、栃木駅～栃木駅を巡回後、栃木駅～藤岡方面に向かっている。現状では栃木駅～藤岡駅間は最大119分となっている。2回目の栃木駅～部屋出張所間の運行となれば片道57分となる。 ・ 1便あたりの運行時間が長時間となっているため、実際のバス運転手の休憩状況を確認したい。
真名子線	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栃木駅、新栃木駅の利用者は多く、東武金崎駅の利用は少ない。 ・ とちぎメディカルセンターとちのきと、しもつがの両方に停留所がある路線となっている。どちらも同じくらいの利用者数となっている。 ・ 利用者の多くがTMCしもつが～小沼入口間に集中している。 ・ 小沼入口～東武金崎駅間の利用はかなり少ない。 ・ わかりやすくするために東武金崎駅を始終点としているが、実際は乗り続けている人がいる。下り線の2回目の小沼入口で乗車人員が『0』になる。 ・ 南北にわたって運行している。市街地の利用者数は多いが、都賀地域の利用も見られる。 ・ 市街地以外では就労支援施設が見られない。 ・ 1日あたりの本数は9本運行している。平休・時間帯によって始終点が異なっている。 ・ 1便あたりの運行時間が長時間となっているため、実際のバス運転手の休憩状況を確認したい。
金崎線	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栃木駅、新栃木駅に停留所があるが、他の路線と比較しても利用者数が多くない。 ・ 家中駅の利用者が路線としては上位にくる利用者数となっている。 ・ イオンの利用者数が最も多く、他の路線と利用状況が異なっている。 ・ とちぎメディカルセンターとちのきと、しもつがの両方に停留所がある路線となっている。路線としては利用者数は多い方である。 ・ 南北にわたって運行している。 ・ 全体的に乗車人数は少ない路線となっている。 ・ 1日あたりの本数は7本運行している。時間帯によって始終点が異なっているためバス停の利用者数としても偏りが出る傾向になってしまっている。 ・ 1便あたりの運行時間が長時間となっているため、実際のバス運転手の休憩状況を確認したい。
大宮国府線	<ul style="list-style-type: none"> ・ イオン、大塚団地、ヨークベニマル栃木平柳店の利用者が目立つ結果となっている。 ・ 栃木駅、新栃木駅の利用者数もいる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大塚団地～イオン間の通過人数が多い結果となっている。他の路線とは違う傾向となっている。 ・ とちぎメディカルセンターとちのきと、しもつがの両方に停留所がある路線となっている。どちらかと言えばしもつがの方が利用者数が多い。 ・ 就労施設はちらほら見られるが、大塚団地～イオン間では見られない。 ・ 1日あたりの本数は5本運行している。時間帯によって始終点が異なっている。 ・ 1便あたりの運行時間が最大75分となっている。
皆川樋ノ口線	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栃木駅→小山西高校(登校)と推測される利用者数が多い。 ・ 小山西高校→栃木駅(下校)は登校よりも目立ってはいない。 ・ 栃木駅に3回停車する路線となっている。 ・ 栃木駅、小山西高校の利用が目立っており、それ以外の利用者数は少なくなっている。 ・ ただし、事業者ヒアリングで小山西高校の生徒を乗車させているので断っている利用者もいるというコメントがあったので、利用が少ないのか断っているから少なく見えるのかは不明である。 ・ 栃木駅～小山西高～栃木駅間には就労施設もある。 ・ 皆川中学校前停留所は多くはないが利用者数がある。 ・ 1日あたりの本数は4本運行している。時間帯によって始終点が異なっている。 ・ 1便あたりの運行時間が最大81分となっている。
小野寺線	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栃木駅利用者が多い。 ・ 皆川城東小の降車が多い。乗車はほとんど見られない。 ・ 停留所毎に利用者数の偏りが極端になっている。 ・ TMCしもつがの利用者数はほとんどいない。 ・ 停留所毎の偏りは少し詳しく確認する必要がある。利用者は限られている可能性がある。 ・ 1日あたりの本数は4本運行している。時間帯によって始終点が異なっている。 ・ 1便あたりの運行時間が最大94分となっている。すぐに折り返し出発しているので運転手の休憩時間は確認しておきたい。
大平線	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栃木駅の利用者数が路線内では圧倒的に多い。 ・ それ以外では商業施設での利用者数が多い傾向となっている。 ・ 栃木駅では北口ではなく南口にバス停がある。 ・ 沿線に就労施設は散見される路線である。 ・ ほとんど利用されていないバス停もある。 ・ 1日あたりの本数は5本運行している。時間帯によって始終点が異なっている。 ・ 1便あたりの運行時間が最大50分となっている。
藤岡線	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅(藤岡駅、岩舟駅、静和駅、東武新大平下駅、JR大平下駅、栃木駅)の停留所が多い。 ・ 鉄道沿いに走っている路線となっている。 ・ 利用者も駅の乗降は路線内では目立つ傾向となっている。 ・ 栃木駅は朝の1便のみしか停車しない。 ・ 藤岡中学校前も利用者がある。特定の人なのか、利用者は確認してみてもどうか。 ・ 沿線沿いの就労施設はほとんどない。 ・ それ以外では商業施設での利用者数が多い傾向となっている。 ・ 栃木駅では北口ではなく南口にバス停がある。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1日あたりの本数は6本運行している。時間帯によって始終点が異なっている。 ・ 1便あたりの運行時間が最大66分となっている。 ・ 平休によって始終点が異なっている。平日は道の駅かぞわたらせ、休日は谷中湖となっている。
岩舟線	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほとんどの利用者は栃木駅で乗降している。 ・ 佐野アウトレットの利用者はほとんど見られない。イオンモール佐野新都市の方が利用者数は多い。 ・ 栃木駅利用以外では特筆すべきような傾向は見当たらない。 ・ 静和駅、岩舟駅も通るが、利用者数としては多くはない。 ・ 就労施設はほとんどない。 ・ 佐野方面は平日のみとなっている。 ・ 静和駅入口経由の1日あたりの本数は7本運行している。時間帯によって始終点が異なっている。 ・ 1便あたりの運行時間が最大71分となっている。 ・ ぶどう団地入口経由の1日あたりの本数は4本運行している。時間帯によって始終点が異なっている。 ・ 1便あたりの運行時間が最大53分となっている。